

秋田県高等学校の再編整備構想検討委員会 第2回会議 県南地区部会（概要）

1 日 時

令和4年7月12日（火） 13：30～16：00

2 場 所

大曲農業高等学校 会議室

3 出席者

○秋田県高等学校の再編整備構想検討委員会委員 9名

○事務局（高校教育課） 7名

4 協 議

委員からの主な意見

- ・多くの審議会では、事務局側で素案をつくって、それを委員でたたき上げている。事務局側の構想や素案があるのであれば、先に出すべきだと考える。
- ・普通科、工業科、農業科も含めて選択肢は多い方がよい。しかも、自宅から通える範囲で、学科の選択肢が多ければなおよい。
- ・県南地区から中央地区に進学する生徒が多い。中央地区に魅力があるからだと思うが、県南地区でも高校の魅力を出していかなければならない。
- ・県南地区から、県外に進学する生徒も多いのではないと思う。秋田の学校の魅力を出し、県外から生徒を呼べるようになることが大事だ。
- ・統合を考える際には、通学状況等も踏まえて検討を進めていかなければいけない。
- ・統合は、少子化による生徒数の減少に対処するためだけに行うのではない。秋田県の目指している教育を充実させるのが一番の根幹である。
- ・生徒数が少ないからといって悪い学校ではないと感じる。学校評価のアンケート結果を見ると、保護者・生徒が先生方や地域の方々に感謝していることがわかる。
- ・総合学科は、一人として同じ時間割の生徒がいらない。生徒にとっての選択肢が多く、魅力的な学科である。
- ・県南地区では、普通科に比べて専門学科の割合が高い。このような特色を残していき

たい。

- ・農業関係、工業関係など産業系の学科はどこまでも残さなければいけないと考える。
いずれは、普通科どうしの統合も考えなければならない。